

HORIBA の願い Our Longterm Goals

ジェームス・ワットが蒸気機関を発明する事により、今迄の家内工業が工場型工業に移行し世にいう産業革命が起こり、その結果、資本・経営・労働の三つの機能が独立して近代資本主義が誕生したことは誰しも認めるところです。

最近の技術革新のトップバッターはなんといってもマイクロエレクトロニクスを源としたコンピュータテクノロジー・コミュニケーションシステム、そしてメカトロニクスであろう。それ等の技術は相互に助け合いながら第二次の産業革命の情報化社会を作り出した。

今や一国の先進度はこれ等の技術のハード・ソフト・アプリケーションの進捗度によって決定されるといっても過言ではありません。

折角鎖国をして自国の体制を守り続けていた社会主義国も世界的情報化の波をもろにかぶり、現体制を維持することは不可能となったボーダーレス時代の最大の被害者(?)といわざるを得ません。

純粹のハードの技術からスタートしたマイクロエレクトロニクスはコンピュータを生み、画期的な通信システムを生み出した。これ等のニューテクノロジーはハード技術と同様、あるいはそれ以上にソフトやアプリケーションの技術を必要とするようになり、産業も二次産業から三次、四次産業に大きく移行し、随所にニュービジネスが誕生し、新しい産業の活性化に大きな役割を果たしつつあります。

しかし、アメリカに代表されるように二次産業の軽視は基本的な国力の低下につながる重大な問題である。確かに二次産業を支え発展させることは本当に地味な仕事である。時には一生日の目を見ずに終わってしまうテーマも多くあり、最近の華々しい風潮からみると実につまらない仕事と見られても仕方がない。だが一次産業の人が土地を耕し、半年かかって米を作るその米がなければ日本人は生きて行けないのと同様、地味な二次産業がなければ三次、四次産業が単体で生きることが出来ません。

HORIBA の方向は、二次産業でも最も基礎的な分野の仕事をバックアップするシステムを提供したいと考えている。マーケットは決して大きくないが、何処かで誰かがやらなければならないと誇りを大きくもっています。

これからのニューテクノロジー、ニューインダストリー、ニュービジネスは人間社会に幸福をもたらすともいえるが、一寸あやまれば大変な不幸をもたらすことにもなる両刃の剣である。災を極小にして幸を最大にする。これが HORIBA の使命と考えている。

この役割を果たすため、HORIBA の技術を多くの方々に Readout して戴いてご指導を頂戴し、我々のささやかな願いをかなえていただければ有難いと思います。



代表取締役会長

堀場 雅夫

医学博士

Masao Horiba, M.D.
Chairman